

2020 年 7 月吉日

蒲郡市教育委員会

『蒲郡市の未来を拓く教育推進会議』

小中学校の教育環境についてのアンケート調査（案） ご協力をお願い

皆様には、日頃から本市の学校運営及び教育委員会活動にご理解ご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

さて蒲郡市では、今後の人口減少に伴い、小中学校に通う児童生徒数が減少していくことが見込まれており(※ p.2 参照)、併せて学校施設の老朽化も進展し、建替えや大規模修繕などの施設の維持更新を順次進めなければならない状況におかれています。蒲郡市教育委員会では、これらを極めて重要な喫緊の課題として捉え、今年度から「蒲郡市の未来を拓く教育推進会議」を設置し、将来の子どもたちの教育環境をより良いものにするための検討を進めています。

この調査は、蒲郡市の未来を拓く教育推進会議でよりよい教育環境を検討するための調査・研究資料として、皆様のご協力をお願いするものです。回答は、すべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。この調査の趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

※アンケート注意事項

- ① はじめに『アンケート調査にあたって』（p.2～3）をご覧ください。
- ② 「学年」、「組」、「氏名」を記入していただく必要はありません。
- ③ 各設問について、別紙の回答用紙に回答をご記入ください。
- ④ 回答は、特に指定がなければ 1 問につき 1 つの回答を選択ください。

また、点線の枠内の項目は対象者のみご回答ください。

- ⑤ ご記入いただいた回答用紙は、7 月 15 日（水）までに学校に提出してください。
- ⑥ 問い合わせ先 蒲郡市教育委員会 庶務課

『蒲郡市の未来を拓く教育推進会議』事務局 電話 0533-66-1166

『アンケート調査にあたって』

【全国的な少子化の進展状況について】

年少人口（0～14歳）について、1980年代の2,700万人規模から減少を続けており、2015年に1,500万人台に減少し、2056年には1,000万人台を割り込み、2065年にはおよそ900万人になることが推計されております。

こうした背景のもと、学校が過度に小規模化したり、教育環境に影響が出たりすることが、全国的に懸念されています。（国立社会保障・人口問題研究所H29推計より）

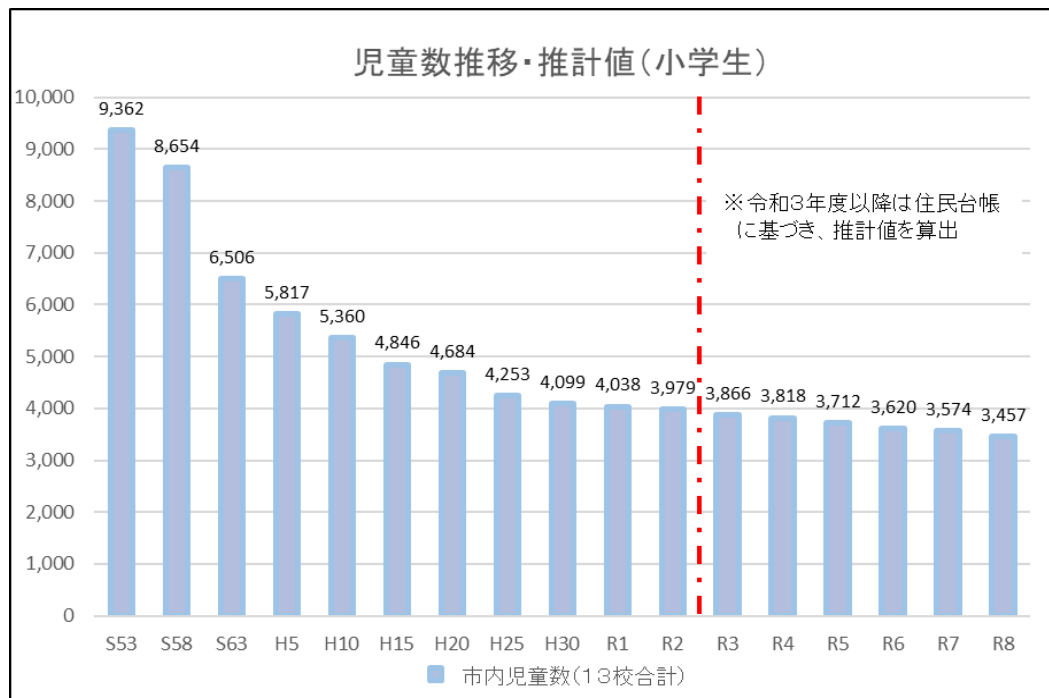
【蒲郡市の小学校の現状】

1 蒲郡市の児童数・学級数の見通し

蒲郡市の小学校は、現状の13小学校体制になってから、1978年(昭和53年)に9,300人超の最多児童数から年々児童数の減少が進展し、現在(令和2年)では、4,000人を割り込んでいます。近い将来(令和8年)の推計値は、さらに500人程度減少すると予測されます。

学級数については、少人数学級(35人制学級)を導入し始めた平成20年度には市全体で167学級、そして蒲郡市が独自に実施している全学年で「35人学級制」となった平成25年においては、市全体で161学級ありました。その後年々減少傾向が続き、現在は152学級となっています。令和8年の推計ではさらに9学年減少し143学級になる見込みです。

※特別支援学級を除く



※令和3年度以降の数値は、現在生まれている子どもがそのまま小学校へ入学すると仮定し、推計値を算出しています。なお、転入・転出等による人口移動の見込みは含んでいません。

2 学校規模の分類別学校数

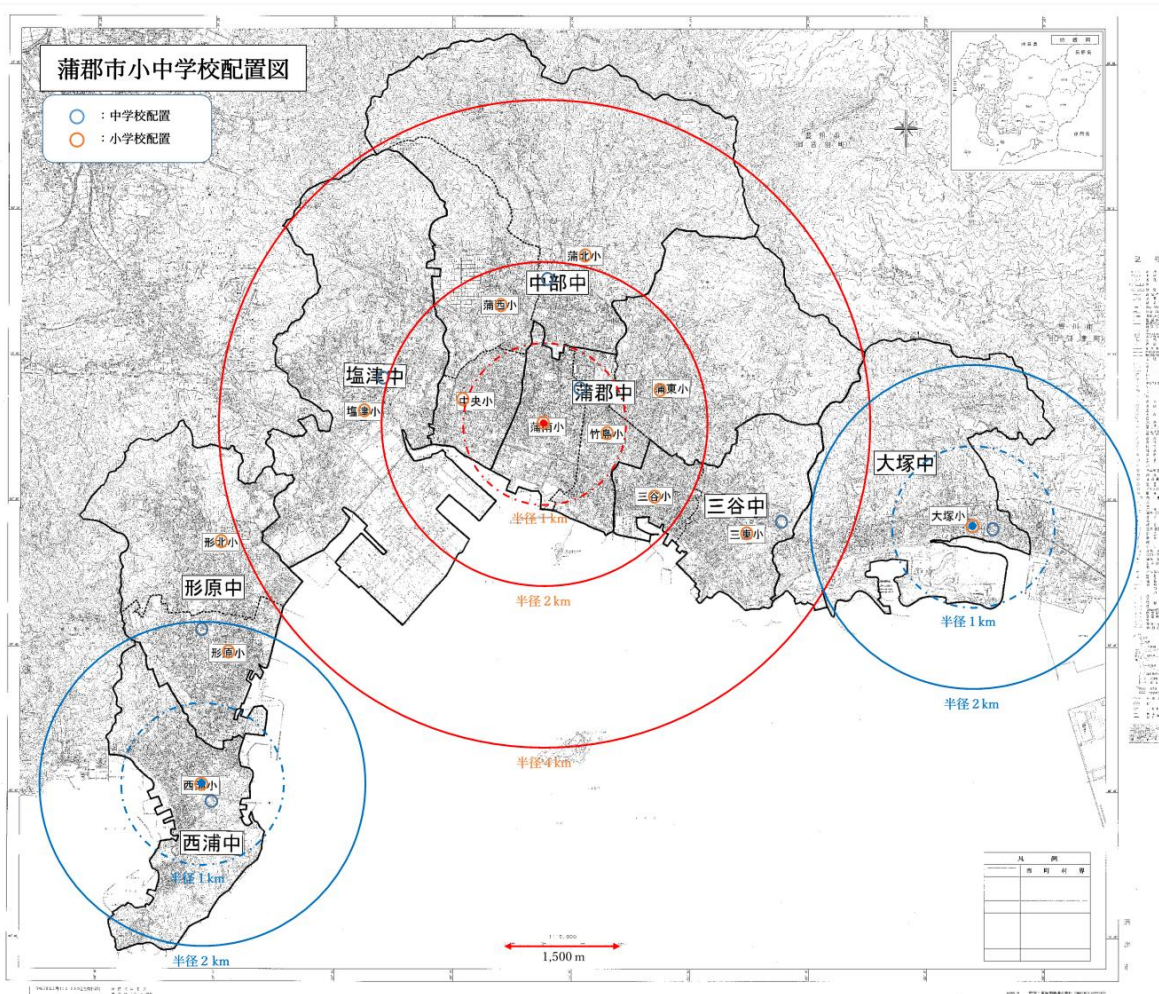
文部科学省（国の基準）では、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準の学校規模としています。その分類に基づく市内の小学校（13校）は、標準規模の小学校が10校、小規模校が3校となります。令和8年度の推計値からは、さらに小規模校が増加すると見込まれます。なお、中学校においては3校が標準規模、4校が小規模校となっています。

	小規模校 (全学年の合計 11 学級以下) ※1 学年 1～2 学級	文科省が定める標準規模校 (12～18 学級) ※1 学年 2～3 学級	大規模校 (全学年の合計 19 学級以上)
小学校(令和 2)	3 校	10 校	なし
小学校(令和 8)	5 校	8 校	なし

3 通学距離の基準について

小学校の通学距離については、法令によると「おおむね 4 キロメートル以内であること」とされています。（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令 4 条 1 項 2 号）

蒲郡市の小学校の通学距離の状況は、下図で示すとおりすべて 4 キロメートル以内であり、最長でも 2 キロメートルを若干上回る地域が一部ある状況となっています。



※中央の同心円(赤円)は蒲郡南部小を中心点とし、1・2・4キロメートルを表記、

左右の同心円(青円)は、大塚小および西浦小を中心点とし、1・2 キロメートルを表記しています。

【アンケート調査本編】

設問① あなたのお子さまが通学しているのはどの学校ですか。

- 1 蒲郡南部小学校
- 2 蒲郡東部小学校
- 3 蒲郡北部小学校
- 4 蒲郡西部小学校
- 5 三谷小学校
- 6 塩津小学校
- 7 大塚小学校
- 8 形原小学校
- 9 西浦小学校
- 10 形原北小学校
- 11 中央小学校
- 12 三谷東小学校
- 13 竹島小学校

設問② あなたにとって、お子さまが通う小学校はどのようなところであるべきだと思いますか。

(当てはまる順に2つまでお選びください。)

- 1 子どもが基礎的な学力を身に付けるところ
- 2 子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ
- 3 子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ
- 4 子どもが人間関係を学ぶところ
- 5 地域コミュニティの核となるところ
- 6 避難所や体育施設としての機能のあるところ

設問③ 現在お子さまが通っている学校規模（1学年学級数など）に満足していますか。

- 1 満足している
- 2 どちらかという満足している
- 3 どちらかという不満である
- 4 不満である

設問④ 1学年あたりの学級数として、理想的だと思うものを一つお選びください。

- 1 1学級
- 2 2学級
- 3 3学級
- 4 4学級以上

設問④-1 設問④理由として当てはまるものをお選びください。 ※2つ回答

- 1 児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 異学年間の交流が生まれやすい
- 4 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える
- 5 地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統等を生かした教育活動ができる
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい
- 7 クラス替えができ、多様な人間関係を構築できる
- 8 クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることができる
- 9 学校の教職員数が多く、行き届いた教育が受けられる
- 10 いろいろなクラブ活動や行事体験ができる
- 11 運動会などの行事で、クラス同士で競争でき、行事がより盛り上がる

【設問④で「1」の1学級を選んだ方は、⑤-1、⑤-2をご回答ください。】

設問⑤-1 1学級の児童数として、適当だと思うものを一つお選びください。

- 1 20人未満 2 20人～29人 3 30人以上

設問⑤-2 ⑤-1の理由として当てはまるものをお選びください。 ※2つ回答

- 1 児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 異学年間の交流が生まれやすい
- 4 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- 5 合唱、団体競技などの集団での学習や体験活動の機会が確保しやすい
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい
- 7 競争意識を持ちやすく、能力向上につながる

設問⑥ 今後、進学する中学校では、1学年あたりの学級数として、理想と思うものを一つお選びください。

- 1 1学級 2 2学級 3 3学級 4 4～5学級 5 6学級以上

設問⑥-1 ⑥理由として当てはまるものをお選びください。 ※2つ回答

- 1 生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 異学年間の交流が生まれやすい
- 4 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える
- 5 地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統等を生かした教育活動ができる
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすく、高校進学に向けて準備ができる
- 7 クラス替えができ、多様な人間関係を構築できる
- 8 切磋琢磨する環境をつくることができ、競争意識が生まれる
- 9 学校の教職員数が多く、教科担任(※)による学習指導が受けられる環境となる
※学級数が少ない場合、教科担任以外の免許外指導が行われるケースがあります。
- 10 いろいろなクラブ活動や部活動、行事体験ができる
- 11 運動会などの行事で、クラス同士で競争でき、行事がより盛り上がる

設問⑦ クラス替えの必要性についてどう思いますか。

- 1 必要 2 どちらかという必要 3 どちらかという不要 4 不要

【設問⑦で「1」または「2」を選んだ方は設問⑧へ、
「3」または「4」を選んだ方は設問⑨へお進みください。】

設問⑧ クラス替えが必要と思われる理由はなぜですか。

- 1 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる
- 2 児童同士の間関係や児童と教員との人間関係に配慮した学級編成ができる
- 3 学校全体にエネルギーが生まれる
- 4 中学校進学に向け、切磋琢磨できる環境が整い、学力向上の刺激につながる

設問⑨ クラス替えが不要と思われる理由はなぜですか。

- 1 固定された友人の中で人間関係を深めることができる
- 2 慣れた環境で落ち着いて学習できる
- 3 クラスの団結力を強めることができる
- 4 児童生徒と教員の関係が深まり、教育環境が高まる

設問⑩ 小学校の通学距離は、法令によると「おおむね4キロメートル以内であること」となっていますが、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか。

- 1 1 km以内
- 2 2 km以内
- 3 3 km以内
- 4 4 km以内
- 5 距離は問わない

設問⑪ 小規模校対策（例えば学校の統合、通学区域の見直しなど）は必要だと思いますか。

（文部科学省では、児童が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ一定の集団規模が確保されていることが望ましいとの考えのもと、1学年あたり2～3学級、学校全体で12～18学級を学校規模の標準としています。）

- 1 必要
- 2 どちらかという必要
- 3 どちらかという不要
- 4 不要

【設問⑪で「1」または「2」を選んだ方は設問⑫～⑬、
「3」または「4」を選んだ方は設問⑭～⑮へお進みください。】

設問⑫ 設問⑪で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

「1」または「2」を選んだ理由をお選びください。

- 1 クラス替えができない
- 2 集団活動・行事に支障が出る
- 3 学校の教職員数が少なくなる
- 4 コミュニケーション能力を身に付けにくい
- 5 PTA 活動等で、保護者の負担が大きい
- 6 児童数の減少が見込まれる中で、今のままの規模で学校施設を維持すべきでない

設問⑬ 設問⑪で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

小規模校対策で、望ましい対策はどれですか。

- 1 学校の統合
- 2 通学区域の見直し ※ただし通学距離が遠方になる場合は、学校の統合を検討
- 3 通学区域の見直し ※通学距離が遠方になったとしても、学校の統合はしない
- 4 学校選択制の導入 ※就学校を選択するもの
- 5 小学校・中学校を一体化するなど、小中一貫教育の導入
- 6 他校との合同授業の実施

設問⑭ 設問⑪で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

小規模校対策として、「学校の統合」を検討する場合の状況について、どう思われますか。

- 1 11学級以下の（学校全体で1学年でも単学級※の学年がある）場合は、学校の統合の対策を検討すべき（※1学年の児童数が35人以下）
- 2 9学級以下の（全学年の半数以上が単学級）場合は、学校統合を検討すべき
- 3 6学級の（全学年が単学級）場合は、学校の統合を検討すべき
- 4 複式学級※が見込まれる場合は学校の統合を検討すべき
（※ 2つの学年をひとつにまとめた学級。例えば3年生と4年生で1学級とする。
複式学級の基準：1・2年生の児童数合計が7人以下、3・4年生の児童数合計が14人以下、5・6年生の児童数の合計が14人以下）

設問⑮ 設問⑪で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

「学校の統合」を検討する場合に重視すべきことは何だと思えますか。

- 1 学級数・児童数
- 2 通学距離・時間・方法
- 3 保護者の意向
- 4 地域住民の意向
- 5 地域間の交流状況

設問⑯ 設問⑪で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

学校の統合や通学区域の見直し等を検討する場合、通学にかかる時間の限度についてはどのように思えますか。

- 1 30分程度
- 2 45分程度
- 3 1時間程度以内
- 4 時間は問わない

設問⑰ 設問⑪で「3」または「4」を選んだ方はお答えください。

「3」または「4」を選んだ理由をお選びください。

- 1 児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる。
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 児童一人ひとりが活躍する機会が多い
- 4 異学年間の交流が生まれやすい
- 5 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える

設問⑱ 設問⑪で「3」または「4」を選んだ方はお答えください。

小規模校対策（例えば学校の統合や通学区域の見直し）について、あなたの考え方に近いほうをお選びください。

- 1 人数によらず不要
- 2 すべての学年が単式学級であれば検討すべき
- 3 複式学級 ※になったら必要

（※ 2つの学年をひとつにまとめた学級。例えば3年生と4年生で1学級とする。

複式学級の基準：1・2年生の児童数合計が7人以下、3・4年生の児童数合計が14人以下、5・6年生の児童数の合計が14人以下）

■ここからは、お子さまへの質問です。お手数おかけしますが回答が可能であれば、保護者の方が聞き取り、ご記入ください。回答が難しい場合は、未回答でも構いません。■

設問⑲ あなたの学年の学級数(クラスの数)についてどのように感じますか。

- 1 ちょうど良い
- 2 もっと多い方がよい
- 3 もっと少ない方がよい

設問⑲-1 ⑲で「2」・「3」と答えた方は、学年での学級数（クラスの数）がどのくらいがいいと思いますか。

- 1 1学級
- 2 2学級
- 3 3学級
- 4 4学級以上

設問⑳ 設問⑲、⑲-1 でそう思う理由はありますか。

- 1 クラス替えができ、多くの友達ができる
- 2 クラス替えがないことで、友達とより仲良くなれる
- 3 異なる学年の友達ができる
- 4 クラス・学校での仲間意識が生まれやすい
- 5 運動場や体育館が利用しやすい
- 6 運動会などの行事で、クラス同士で競争でき、行事がより盛り上がる
- 7 わからない

自由記述

アンケートご回答ありがとうございました。

蒲郡市では子ども達によりよい教育環境を整えるため、学校規模の適正化について検討しています。保護者の皆様のご意見があれば、お聞かせください。回答用紙の自由記述欄に記載をお願いいたします。

2020 年 7 月吉日
蒲郡市教育委員会
『蒲郡市の未来を拓く教育推進会議』

小中学校の教育環境についてのアンケート調査（案） ご協力をお願い

皆様には、日頃から本市の学校運営及び教育委員会活動にご理解ご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

さて蒲郡市では、今後の人口減少に伴い、小中学校に通う児童生徒数が減少していくことが見込まれており(※ p. 2 参照)、併せて学校施設の老朽化も進展し、建替えや大規模修繕などの施設の維持更新を順次進めなければならない状況におかれています。蒲郡市教育委員会では、これらを極めて重要な喫緊の課題として捉え、今年度から「蒲郡市の未来を拓く教育推進会議」を設置し、将来の子どもたちの教育環境をより良いものにするための検討を進めています。

この調査は、蒲郡市の未来を拓く教育推進会議でよりよい教育環境を検討するための調査・研究資料として、皆様のご協力をお願いするものです。回答は、すべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。この調査の趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

※アンケート注意事項

- ① はじめに『アンケート調査にあたって』（p. 2～3）をご覧ください。
- ② 「学年」、「組」、「氏名」を記入していただく必要はありません。
- ③ 各設問について、別紙の回答用紙に回答をご記入ください。
- ④ 回答は、特に指定がなければ 1 問につき 1 つの回答を選択ください。

また、点線の枠内の項目は対象者のみご回答ください。

- ⑤ ご記入いただいた回答用紙は、7 月 15 日（水）までに学校に提出してください。
- ⑥ 問い合わせ先 蒲郡市教育委員会 庶務課

『蒲郡市の未来を拓く教育推進会議』事務局 電話 0533-66-1166

『アンケート調査にあたって』

【全国的な少子化の進展状況について】

年少人口（0～14歳）について、1980年代の2,700万人規模から減少を続けており、2015年に1,500万人台に減少し、2056年には1,000万人台を割り込み、2065年にはおよそ900万人になることが推計されております。

こうした背景のもと、学校が過度に小規模化したり、教育環境に影響が出たりすることが、全国的に懸念されています。（国立社会保障・人口問題研究所H29推計より）

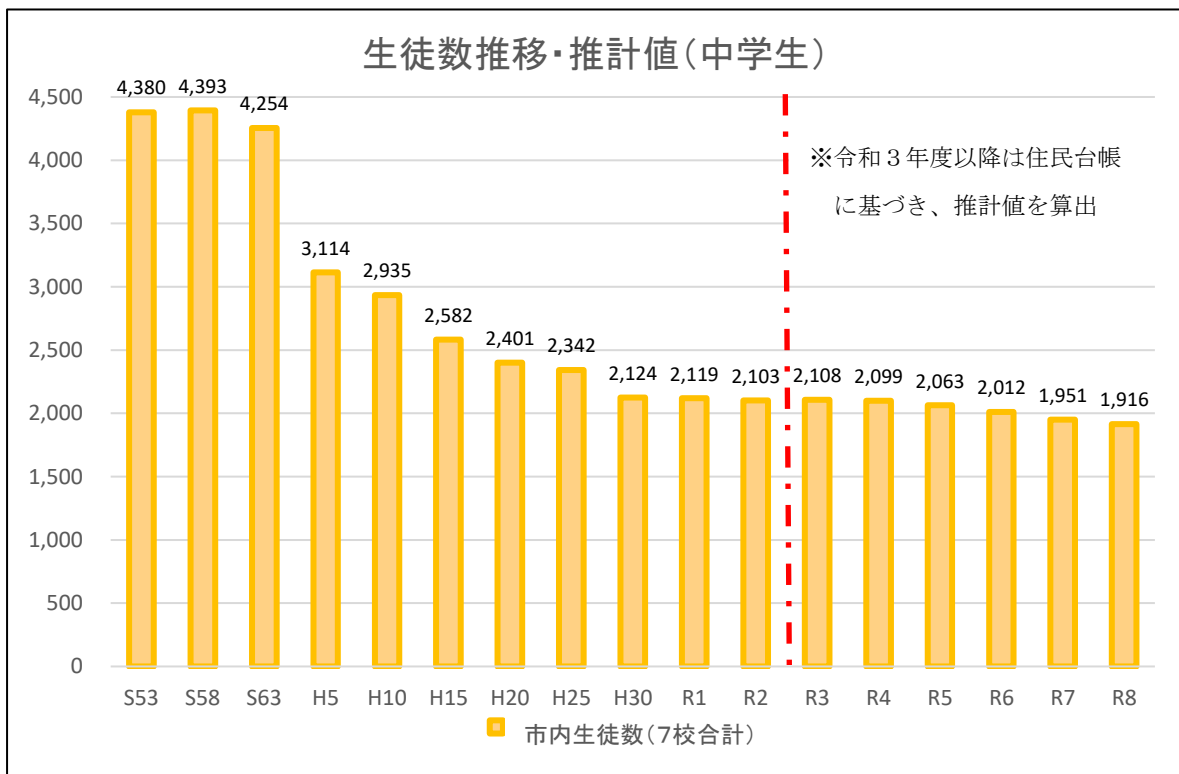
【蒲郡市の中学校の現状】

1 蒲郡市の生徒数・学級数の見通し

蒲郡市の中学校は、現状の7中学校体制になった1978年(昭和53年)は、生徒数4,300人超であり、昭和60年代からは年々減少し、現在(令和2年)では2,100人程度となっています。近い将来(令和8年)の推計値は、2,000人を割り込む想定となっています。

学級数については、少人数学級(35人制学級)を導入し始めた平成20年度には市全体で73学級、そして蒲郡市が独自に実施している全学年で「35人学級制」となった平成25年においては、市全体で76学級ありました。その後年々減少傾向が続き、現在は69学級となっています。令和8年の推計ではさらに3学年減少し66学級になる見込みです。

※特別支援学級を除く



※令和3年度以降の数値は、現在の小学校に通っている児童がそのまま同地区で中学へ入学すると仮定し、推計値を算出しています。なお、転入・転出等による人口移動の見込みは含んでいません。

2 学校規模の分類別学校数

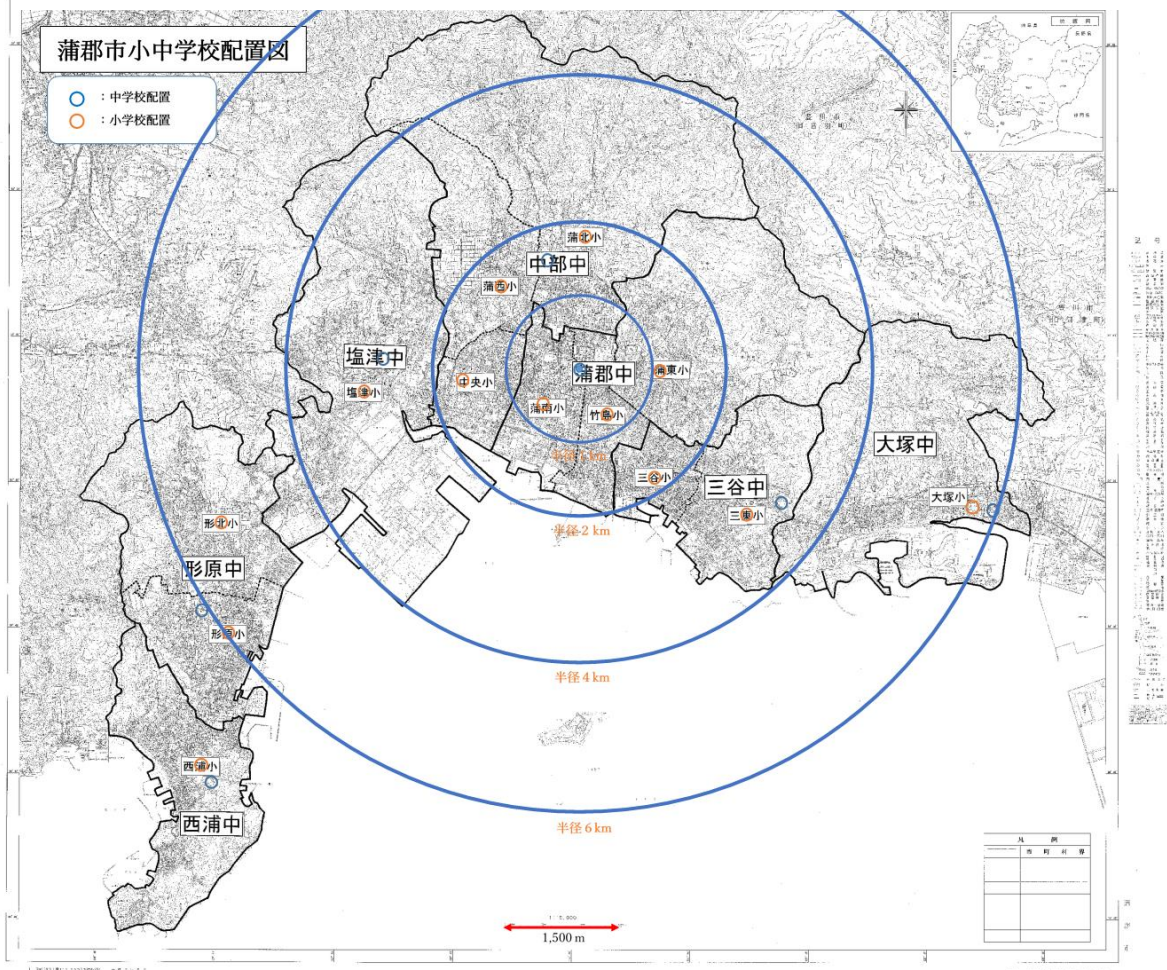
文部科学省（国の基準）では、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準の学校規模としています。その分類に基づく現在の市内の中学校（7校）は、標準規模の中学校が3校、小規模校が4校となります。令和8年度の推計値からは、さらに小規模校が増加していくと見込まれています。なお、小学校においては10校が標準規模、3校が小規模校となっています。

	小規模校 (全学年の合計 11 学級以下) ※1 学年 1～3 学級	文科省が定める標準規模校 (12～18 学級) ※1 学年 4～6 学級	大規模校 (全学年の合計 19 学級以上)
中学校(令和 2)	4 校	3 校	なし
中学校(令和 8)	5 校	2 校	なし

3 通学距離の基準について

中学校の通学距離については、法令によると「おおむね6キロメートル以内（小学校は4キロ）であること」とされています。（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令 4 条 1 項 2 号）

蒲郡市の中学校の通学距離の状況は、下図からすべて6キロメートル以内であることが分かり、最長でも2キロメートルを若干上回る地域が一部ある状況となっています。



※中央の同心円は蒲郡中学校を中心点とし、1・2・4・6キロメートルを表記しています。

【アンケート調査本編】

設問① あなたのお子さまが通学しているのはどこの学校ですか。

- 1 蒲郡中学校
- 2 三谷中学校
- 3 塩津中学校
- 4 大塚中学校
- 5 西浦中学校
- 6 形原中学校
- 7 中部中学校

設問② あなたにとって、お子さまが通う中学校はどのようなところであるべきだと思いますか。

(当てはまる順に2つまでお選びください。)

- 1 子どもが学力を身に付け、高等学校教育に向けた準備をするところ
- 2 子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ
- 3 子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ
- 4 子どもが人間関係を学び、コミュニケーション能力を高めるところ
- 5 地域コミュニティの核となるところ
- 6 避難所や体育施設としての機能のあるところ

設問③ 現在お子さまが通っている学校規模（1学年学級数など）に満足していますか。

- 1 満足している
- 2 どちらかという満足している
- 3 どちらかという不満である
- 4 不満である

設問④ 1学年あたりの学級数として、理想的だと思うものを一つお選びください。

- 1 1学級
- 2 2学級
- 3 3学級
- 4 4～5学級
- 5 6学級以上

設問④-1 設問④理由として当てはまるものをお選びください。 ※2つ回答

- 1 生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 異学年間の交流が生まれやすい
- 4 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える
- 5 地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統等を生かした教育活動ができる
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすく、高校進学に向けて準備ができる
- 7 クラス替えができ、多様な人間関係を構築できる
- 8 クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることができ、競争意識が生まれる
- 9 学校の教職員数が多く、教科担任(※)による学習指導が受けられる環境となる
※学級数が少ない場合、教科担任以外の免許外指導が行われるケースがあります。
- 10 いろいろなクラブ活動や部活動、行事体験ができる
- 11 運動会などの行事で、クラス同士で競争でき、行事がより盛り上がる

【設問④で「1」の1学級を選んだ方は、⑤-1、⑤-2をご回答ください。】

設問⑤-1 1学級の生徒数として、適当だと思うものを一つお選びください。

- 1 20人未満 2 20人～29人 3 30人以上

設問⑤-2 ⑤-1の理由として当てはまるものをお選びください。 ※2つ回答

- 1 生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 異学年間の交流が生まれやすい
- 4 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- 5 合唱、団体競技などの集団での学習や体験活動の機会が確保しやすい
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい
- 7 競争意識を持ちやすく、能力向上につながる

設問⑥ これまでお子さまが通っていた小学校においては、1学年あたりの学級数として、理想と思うものを1つお選びください。

- 1 1学級 2 2学級 3 3学級 4 4学級以上

設問⑥-1 ⑥理由として当てはまるものをお選びください。 ※2つ回答

- 1 児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 異学年間の交流が生まれやすい
- 4 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える
- 5 地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統等を生かした教育活動ができる
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい
- 7 クラス替えができ、多様な人間関係を構築できる
- 8 クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることができる
- 9 学校の教職員数が多く、行き届いた教育が受けられる
- 10 いろいろなクラブ活動や行事体験ができる
- 11 運動会などの行事で、クラス同士で競争でき、行事がより盛り上がる

設問⑦ クラス替えの必要性についてどう思いますか。

- 1 必要 2 どちらかという必要 3 どちらかという不要 4 不要

【設問⑦で「1」または「2」を選んだ方は設問⑧へ、
「3」または「4」を選んだ方は設問⑨へお進みください。】

設問⑧ クラス替えが必要と思われる理由はなぜですか。

- 1 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる
- 2 生徒同士の人間関係や生徒と教員との人間関係に配慮した学級編成ができる
- 3 学校全体にエネルギーが生まれる
- 4 高等学校教育に向け、切磋琢磨できる環境が整い、学力向上の刺激につながる

設問⑨ クラス替えが不要と思われる理由はなぜですか。

- 1 固定された友人の中で人間関係を深めることができる
- 2 慣れた環境で落ち着いて高等学校教育に向け、学習できる
- 3 クラスの団結力を強めることができる
- 4 児童生徒と教員の関係が深まり、教育環境が高まる

設問⑩ 中学校の通学距離は、法令によると「おおむね6キロメートル以内であること」となっていますが、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われるですか。

- 1 1 km以内
- 2 2 km以内
- 3 2～4 km以内（自転車通学含む）
- 4 4～6 km以内（自転車通学含む）
- 5 自転車等の手段があれば距離は問わない

設問⑪ 小規模校対策（例えば学校の統合、通学区域の見直し、学校選択制の導入）は必要だと思いますか。

（文部科学省では、生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ一定の集団規模が確保されていることが望ましいとの考えのもと、学校全体で12～18学級、中学校では1学年4～6学級、小学校では1学年2～3学級を学校規模の標準としています。）

- 1 必要
- 2 どちらかというが必要
- 3 どちらかというに不要
- 4 不要

【設問⑩で「1」または「2」を選んだ方は設問⑫～⑬、
「3」または「4」を選んだ方は設問⑭～⑮へお進みください。】

設問⑫ 設問⑩で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

「1」または「2」を選んだ理由をお選びください。

- 1 小規模すぎるとクラス替えができない、クラス替えの規模が小さい
- 2 集団活動・行事に支障が出る
- 3 学校の教職員数が少なくなり、免許外指導が実施される場合がある
- 4 コミュニケーション能力を身に付けにくい
- 5 PTA活動等で、保護者の負担が大きい
- 6 生徒数の減少が見込まれる中で、今のままの規模で学校施設を維持すべきでない

設問⑬ 設問⑩で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

小規模校対策で、望ましい対策はどれですか。

- 1 学校の統合
- 2 通学区域の見直し ※ただし通学距離が遠方になる場合は、学校の統合を検討
- 3 通学区域の見直し ※通学距離が遠方になったとしても、学校の統合はしない
- 4 学校選択制の導入 ※就学校を選択するもの
- 5 小学校・中学校を一体化するなど、小中一貫教育の導入
- 6 他校との合同授業の実施

設問⑭ 設問⑩で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

小規模校対策として、「学校の統合」を検討する場合の状況について、どう思われますか。

- 1 1学級以下の（国の標準を下回る）場合は、学校統合の対策を検討すべき
- 2 9学級未満の（全学年の2学級以上、3学級未満）場合は、学校統合を検討すべき
- 3 6学級未満の（全学年の一部が単学級になる）場合は、学校統合を検討すべき
- 4 3学級の（全学年が単学級）場合は、学校の統合を検討すべき
- 5 複式学級※が見込まれる場合は学校の統合を検討すべき
（※ 2つの学年をひとつにまとめた学級。例えば1年生と2年生で1学級とする。
複式学級の基準：1・2年生の生徒数合計が8人以下）

設問⑮ 設問⑩で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

「学校の統合」を検討する場合に重視すべきことは何だと思いますか。

- 1 学級数・生徒数
- 2 通学距離・時間・方法
- 3 保護者の意向
- 4 生徒の意向
- 5 地域住民の意向
- 6 地域間の交流状況

設問⑯ 設問⑩で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

学校の統合や通学区域の見直し等を検討する場合、通学にかかる時間の限度についてはどのように思いますか。

- 1 30分程度
- 2 45分程度
- 3 1時間程度以内
- 4 時間は問わない

設問⑰ 設問⑩で「3」または「4」を選んだ方はその理由をお答えください。

- 1 生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる。
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 生徒一人ひとりが活躍する機会が多い
- 4 異学年間の交流が生まれやすい
- 5 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える
- 6 少なくともクラス替えができるのであれば、対応は不要である

設問⑱ 設問⑪で「3」または「4」を選んだ方はお答えください。

小規模校対策（例えば学校の統合や通学区域の見直し）について、あなたの考え方に近いほうをお選びください。

- 1 人数、学級数に関わらず不要
- 2 すべての学年が単式学級であれば検討すべき
- 3 複式学級 ※になったら必要

（※ 2つの学年をひとつにまとめた学級。例えば3年生と4年生で1学級とする。

複式学級の基準：1・2年生の児童数合計が7人以下、3・4年生の児童数合計が14人以下、5・6年生の児童数の合計が14人以下）

■ここからは、お子さまへの質問です。お手数おかけしますが回答が可能であれば、保護者の方が聞き取り、ご記入ください。回答が難しい場合は、未回答でも構いません。■

設問⑲ あなたの学年の学級数(クラスの数)についてどのように感じますか。

- 1 ちょうど良い
- 2 もっと多い方がよい
- 3 もっと少ない方がよい

設問⑲-1 ⑲で「2」・「3」と答えた方は、学年での学級数（クラスの数）がどのくらいがいいと思いますか。

- 1 1学級
- 2 2学級
- 3 3学級
- 4 4～5学級
- 5 6学級以上

設問⑳ 設問⑲、⑲-1 でそう思う理由はありますか。

- 1 クラス替えができ、多くの友達ができる
- 2 クラス替えがない（少ない）ことで、友達とより仲良くなれる
- 3 異なる学年の友達ができる
- 4 クラス・学校での仲間意識が生まれやすい
- 5 運動場や体育館が利用しやすい
- 6 多様な部活動などを選択できる
- 7 生徒数が少ないため部活動の選択ができない
- 8 運動会などの行事で、クラス同士で競争でき、行事がより盛り上がる
- 9 わからない

自由記述

アンケートご回答ありがとうございました。

蒲郡市では子ども達によりよい教育環境を整えるため、学校規模の適正化について検討しています。保護者の皆様のご意見があれば、お聞かせください。回答用紙の自由記述欄に記載をお願いいたします。

2020 年 7 月吉日
蒲郡市教育委員会
『蒲郡市の未来を拓く教育推進会議』

小中学校の教育環境についてのアンケート調査（案） ご協力のお願い

教職員の皆様には、日頃から教育行政に関し、何かとご理解ご協力をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

さて蒲郡市では、今後の人口減少に伴い、小中学校に通う児童生徒数が減少していくことが見込まれており(※ p.2 参照)、併せて学校施設の老朽化も進展し、建替えや大規模修繕などの施設の維持更新を順次進めなければならない状況におかれています。蒲郡市教育委員会では、これらを極めて重要な喫緊の課題として捉え、今年度から「蒲郡市の未来を拓く教育推進会議」を設置し、将来の子どもたちの教育環境をより良いものにするための検討を進めています。

この調査は、蒲郡市の未来を拓く教育推進会議でよりよい教育環境を検討するための調査・研究資料として、教職員の立場でのご意見をいただくためにご協力をお願いするものです。回答は、すべて統計的に処理し、上記目的以外に使用することはありません。この調査の趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

※アンケート注意事項

- ① はじめに『アンケート調査にあたって』（p.2～4）をご覧ください。
- ② 所属の学校のみ選択いただき、「学年」、「組」、「氏名」を記入していただく必要はありません。
- ③ 各設問について、別紙の回答用紙に回答をご記入ください。
- ④ 回答は、特に指定がなければ 1 問につき 1 つの回答を選択ください。

また、点線の枠内の項目は対象者のみご回答ください。

- ⑤ ご記入いただいた回答用紙は、7 月 15 日（水）までに学校で取りまとめ、提出してください。
- ⑥ 問い合わせ先 蒲郡市教育委員会 庶務課

『蒲郡市の未来を拓く教育推進会議』事務局 電話 0533-66-1166

『アンケート調査にあたって』

【全国的な少子化の進展状況について】

年少人口（0～14歳）について、1980年代の2,700万人規模から減少を続けており、2015年に1,500万人台に減少し、2056年には1,000万人台を割り込み、2065年にはおよそ900万人になることが推計されております。

こうした背景のもと、学校が過度に小規模化したり、教育環境に影響が出たりすることが、全国的に懸念されています。（国立社会保障・人口問題研究所H29推計より）

【蒲郡市の小中学校の現状】

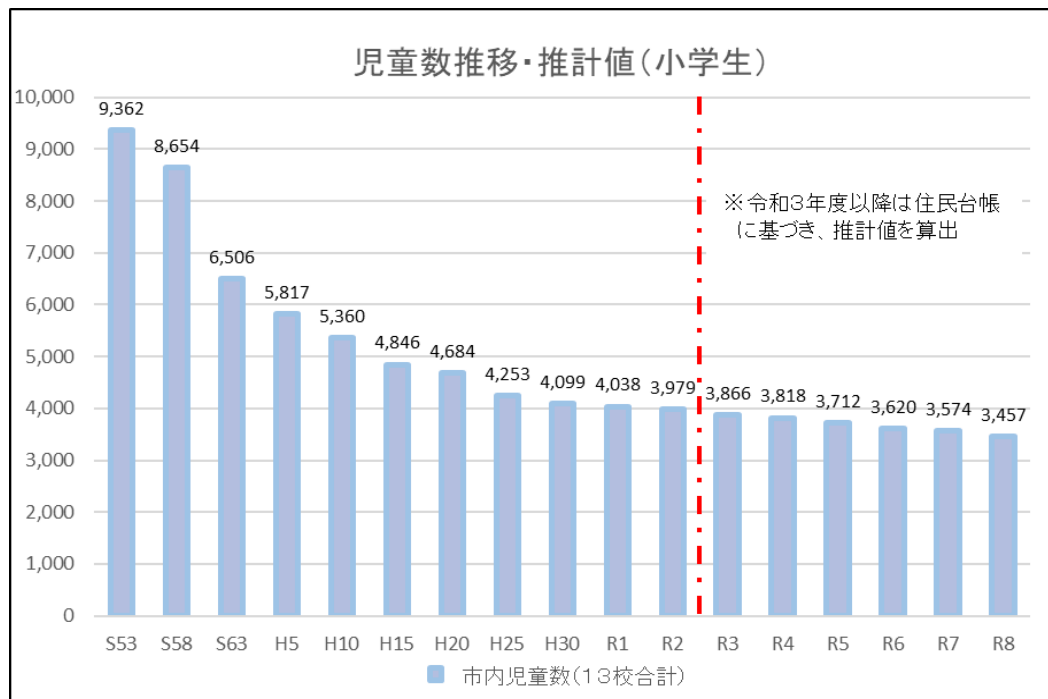
1 蒲郡市の児童生徒数・学級数の見通し

【小学校】

蒲郡市の小学校は、現状の13小学校体制になってから、1978年(昭和53年)に9,300人超の最多児童数から年々児童数の減少が進展し、現在(令和2年)では、4,000人を割り込んでいます。近い将来(令和8年)の推計値は、さらに500人程度減少すると予測されます。

学級数については、少人数学級(35人制学級)を導入し始めた平成20年度には市全体で167学級、そして蒲郡市が独自に実施している全学年で「35人学級制」となった平成25年においては、市全体で161学級ありました。その後年々減少傾向が続き、現在は152学級となっています。令和8年の推計ではさらに9学年減少し143学級になる見込みです。

※特別支援学級を除く



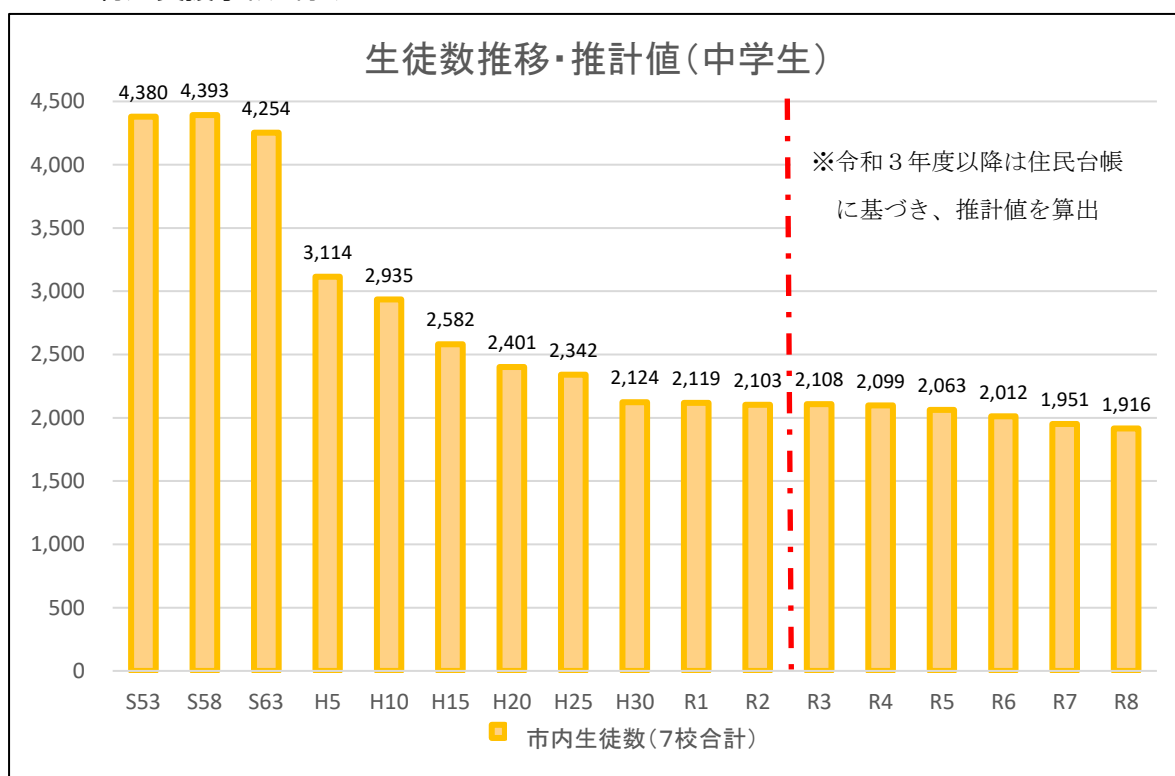
※令和3年度以降の数値は、現在生まれている子どもがそのまま小学校へ入学すると仮定し、推計値を算出しています。なお、転入・転出等による人口移動の見込みは含んでいません。

【中学校】

蒲郡市の中学校は、現状の7中学校体制になった1978年(昭和53年)は、生徒数4,300人超であり、昭和60年代からは年々減少し、現在(令和2年)では2,100人程度となっています。近い将来(令和8年)の推計値は、2,000人を割り込む想定となっています。

学級数については、少人数学級(35人制学級)を導入し始めた平成20年度には市全体で73学級、そして蒲郡市が独自に実施している全学年で「35人学級制」となった平成25年においては、市全体で76学級ありました。その後年々減少傾向が続き、現在は69学級となっています。令和8年の推計ではさらに3学年減少し66学級になる見込みです。

※特別支援学級を除く



※令和3年度以降の数値は、現在の小学校に通っている児童がそのまま同地区で中学へ入学すると仮定し、推計値を算出しています。なお、転入・転出等による人口移動の見込みは含んでいません。

2 学校規模の分類別学校数

文部科学省(国の基準)では、小学校・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準の学校規模としています。

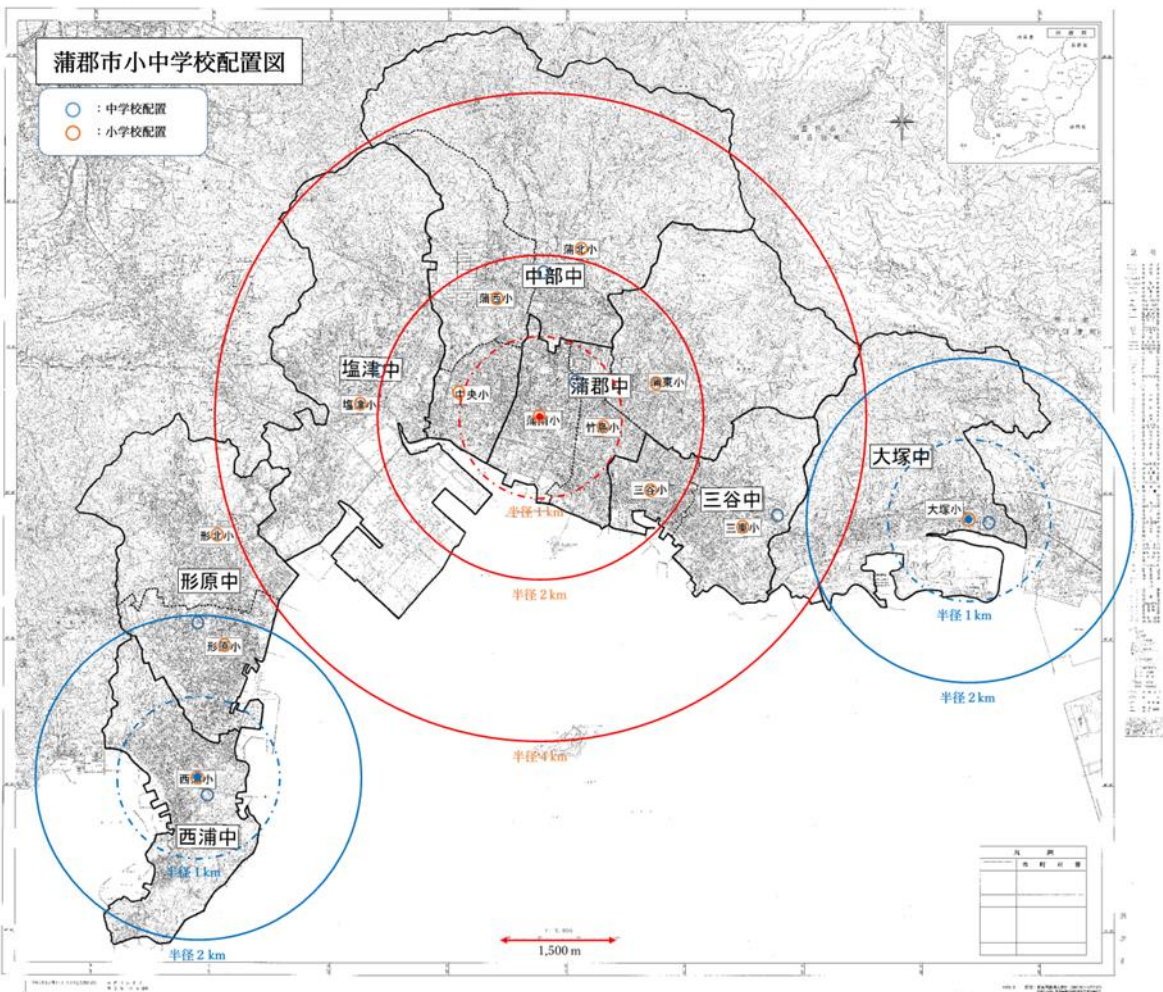
その国の分類に基づくと、現在の市内の小学校においては、次頁の表に示すとおり、10校が標準規模校、3校が小規模校となります。また中学校においては、標準規模校が3校、小規模校が4校となります。令和8年度の推計値からは、さらに小規模校とされる小学校・中学校が増加していくと見込まれています。

	小規模校 (全学年の合計 11 学級以下) 小学校：1 学年 1～2 学級 中学校：1 学年 1～3 学級	文科省が定める標準規模校 (12～18 学級) 小学校：1 学年 2～3 学級 中学校：4～6 学級	大規模校 (全学年の 合計 19 学 級以上)
小学校(令和 2)	3 校	10 校	なし
小学校(令和 8)	5 校	8 校	なし
中学校(令和 2)	4 校	3 校	なし
中学校(令和 8)	5 校	2 校	なし

3 通学距離の基準について

小学校・中学校の通学距離については、法令によると小学校は「おおむね 4 キロメートル以内であること」、中学校は「おおむね 6 キロメートル以内であること」とされています。（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令 4 条 1 項 2 号）

蒲郡市の小中学校の通学距離の状況は、下図より法令の範囲内であることが読み取れます。なお小中学校とも、最長でも 2 キロメートルを若干上回る地域が一部ある状況となっています。



※中央の同心円(赤円)は蒲郡南部小を中心点とし、1・2・4キロメートルを表記、

左右の同心円(青円)は、大塚小および西浦小を中心点とし、1・2 キロメートルを表記しています。

【アンケート調査本編】

設問① あなたの勤務している学校はどこですか。

- 1 蒲郡南部小学校 2 蒲郡東部小学校 3 蒲郡北部小学校 4 蒲郡西部小学校
- 5 三谷小学校 6 塩津小学校 7 大塚小学校 8 形原小学校 9 西浦小学校
- 10 形原北小学校 11 中央小学校 12 三谷東小学校 13 竹島小学校
- A 蒲郡中学校 B 三谷中学校 C 塩津中学校 D 大塚中学校
- E 西浦中学校 F 形原中学校 G 中部中学校

問② あなたにとって、「小学校」はどのようなところであるべきだと思いますか。

(当てはまる順に2つまでお選びください。)

- 1 子どもが基礎的な学力を身に付けるところ
- 2 子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ
- 3 子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ
- 4 子どもが人間関係を学ぶところ
- 5 地域コミュニティの核となるところ
- 6 避難所や体育施設としての機能のあるところ

問③ あなたにとって、「中学校」はどのようなところであるべきだと思いますか。

(当てはまる順に2つまでお選びください。)

- 1 子どもが学力を身に付け、高等学校教育に向けた準備をするところ
- 2 子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ
- 3 子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ
- 4 子どもが人間関係を学び、コミュニケーション能力を高めるところ
- 5 地域コミュニティの核となるところ
- 6 避難所や体育施設としての機能のあるところ

設問④ 現在あなたの勤務する学校規模は、教育現場として適正な規模（※1学年の学級数）といえますか。

- 1 適正である
- 2 どちらかという適切といえる
- 3 どちらかという適正といえない
- 4 適正でない

設問⑤ 1学年あたりの学級数として、理想的だと思うものを一つお選びください。

- 1 1学級 2 2学級 3 3学級 4 4学級
- 5 5学級 6 6学級以上

設問⑤-1 設問⑤理由として当てはまるものをお選びください。 ※ 2つ回答

- 1 児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が実施できる
- 2 児童生徒のクラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 児童生徒の異学年間の交流が生まれやすい
- 4 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える・手配できる
- 5 地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統等を生かした教育活動ができる
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすく、中学高校進学に向け準備ができる
- 7 クラス替えができ、多様な人間関係を構築できる
- 8 クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることができ、競争意識が生まれる
- 9 学校の教職員数が多く、教科担任(※)による学習指導が受けられる環境となる
※学級数が少ない場合、教科担任以外の免許外指導が行われるケースがあります。
- 10 いろいろなクラブ活動や部活動ができる
- 11 運動会などの行事で、クラス同士で競争でき、行事がより盛り上がる

【設問⑤で「1」の1学級を選んだ方は、⑥-1、⑥-2をご回答ください。】

設問⑥-1 1学級の生徒数として、適当だと思うものを一つお選びください。

- 1 20人未満 2 20人～29人 3 30人以上

設問⑥-2 ⑥-1の理由として当てはまるものをお選びください。 ※ 2つ回答

- 1 児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が実施できる
- 2 児童生徒のクラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 児童生徒の異学年間の交流が生まれやすい
- 4 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- 5 合唱、団体競技などの集団での学習や体験活動の機会が確保しやすい
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい
- 7 競争意識を持ちやすく、能力向上につながる

設問⑦ あなたが現在所属していない(※)小学校、または中学校についてお答えください。1学年あたりの学級数として、理想と思うものを1つお選びください。

(※小学校教員においては中学校の学級数の理想と思うもの、中学校教員においては小学校の学級数で理想と思われるものを選択してください)

- 1 1学級 2 2学級 3 3学級 4 4学級
5 5学級 6 6学級以上

設問⑦-1 ⑦理由として当てはまるものをお選びください。 ※ 2つ回答

- 1 児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が実施できる
- 2 児童生徒のクラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 児童生徒の異学年間の交流が生まれやすい
- 4 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える・手配できる
- 5 地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統等を生かした教育活動ができる
- 6 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすく、中学・高校進学に向け準備ができる
- 7 クラス替えができ、多様な人間関係を構築できる
- 8 クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることができ、競争意識が生まれる
- 9 学校の教職員数が多く、教科担任(※)による学習指導が受けられる環境となる
※学級数が少ない場合、教科担任以外の免許外指導が行われるケースがあります。
- 10 いろいろなクラブ活動や部活動が実施できる
- 11 運動会などの行事で、クラス同士で競争でき、行事がより盛り上がる

設問⑧ クラス替えの必要性についてどう思いますか。

- 1 必要 2 どちらかという必要 3 どちらかという不要 4 不要

【 設問⑧で「1」または「2」を選んだ方は設問⑨へ、
「3」または「4」を選んだ方は設問⑩へお進みください。】

設問⑨ クラス替えが必要と思われる理由はなぜですか。

- 1 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる
- 2 児童生徒同士の人間関係や生徒と教員との人間関係に配慮した学級編成ができる
- 3 学校全体にエネルギーが生まれる
- 4 中学校進学および高等学校教育に向け、切磋琢磨できる環境が整い、学力向上の刺激につながる

設問⑩ クラス替えが不要と思われる理由はなぜですか。

- 1 児童生徒が固定された友人環境で人間関係を深めることができる
- 2 児童生徒が慣れた環境で落ち着いて学習できる
- 3 学校およびクラスの団結力・結束力を強めることができる
- 4 児童生徒と教員の関係が深まり、教育環境が高まる

【小学校勤務の方は⑪-1、中学校勤務の方は⑪-2 の設問にご回答ください】

設問⑪-1 小学校の通学距離は、法令によると「おおむね 4 キロメートル以内であること」となっていますが、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか。

- 1 1 km以内
- 2 2 km以内
- 3 3 km以内
- 4 4 km以内
- 5 距離は問わない

設問⑪-2 中学校の通学距離は、法令によると「おおむね 6 キロメートル以内であること」となっていますが、どの程度の距離までが通学可能範囲と思われますか。

- 1 1 km以内
- 2 2 km以内
- 3 2～4 km以内（自転車通学含む）
- 4 4～6 km以内（自転車通学含む）
- 5 自転車等の手段があれば距離は問わない

設問⑫ 小規模校対策（例えば学校の統合、通学区域の見直しなど）は必要だと思いますか。

（文部科学省では、生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ一定の集団規模が確保されていることが望ましいとの考えのもと、学校全体で 1 2～1 8 学級、小学校では 1 学年 2～3 学級、中学校では 1 学年 4～6 学級を学校規模の標準としています。）

- 1 必要
- 2 どちらかという必要
- 3 どちらかという不要
- 4 不要

【設問⑫で「1」または「2」を選んだ方は設問⑬～⑭、
「3」または「4」を選んだ方は設問⑮～⑯へお進みください。】

設問⑬ 設問⑫で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

「1」または「2」を選んだ理由をお選びください。

- 1 小規模すぎるとクラス替えができない、クラス替えの規模が小さい
- 2 集団活動・学校行事に支障が出る
- 3 学校の教職員数が少なくなり、免許外指導が実施される場合がある
- 4 児童生徒がコミュニケーション能力を身に付けにくい
- 5 PTA 活動等で、教員や保護者の負担が大きい
- 6 児童生徒数の減少が見込まれる中で、現状の規模で学校施設を維持すべきでない

設問⑭ 設問⑫で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

小規模校対策で、望ましい対策はどれだと思いますか。

- 1 学校の統合（小学校同士、または中学校同士のもの）
- 2 通学区域の見直し ※ただし通学距離が遠方になる場合は、学校の統合を検討
- 3 通学区域の見直し ※通学距離が遠方になったとしても、学校の統合はしない
- 4 学校選択制の導入 ※就学校を選択するもの
- 5 小学校・中学校を一体化するなど、小中一貫教育の導入
- 6 他校との合同授業の実施

設問⑮ 設問⑫で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

『小学校』の小規模校対策として、「学校の統合」を検討する場合の状況について、
どう思われますか。

- 1 1 1 学級以下の（学校全体で1 学年でも単学級※の学年がある）場合は、
学校の統合の対策を検討すべき（※ 1 学年の児童数が3 5 人以下）
- 2 9 学級以下の（全学年の半数以上が単学級）場合は、学校統合を検討すべき
- 3 6 学級の（全学年が単学級）場合は、学校の統合を検討すべき
- 4 複式学級※が見込まれる場合は学校の統合を検討すべき
（※ 2 つの学年をひとつにまとめた学級。例えば3 年生と4 年生で1 学級とする。
複式学級の基準：1・2 年生の児童数合計が7 人以下、3・4 年生の児童数
合計が1 4 人以下、5・6 年生の児童数の合計が1 4 人以下）

設問⑯ 設問⑫で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

『中学校』の小規模校対策として、「学校の統合」を検討する場合の状況について、
どう思われますか。

- 1 1 1 学級以下の（国の標準を下回る）場合は、学校統合の対策を検討すべき
- 2 9 学級未満の（全学年の2 学級以上、3 学級未満）場合は、学校統合を検討
すべき
- 3 6 学級未満の（全学年の一部が単学級になる）場合は、学校統合を検討すべき
- 4 3 学級の（全学年が単学級）場合は、学校の統合を検討すべき
- 5 複式学級※が見込まれる場合は学校の統合を検討すべき
（※ 2 つの学年をひとつにまとめた学級。例えば1 年生と2 年生で1 学級とする。
複式学級の基準：1・2 年生の生徒数合計が8 人以下）

設問⑰ 設問⑫で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

小規模校対策（学校の統合など）を検討する場合に重視すべきことは何だと思いますか。

- 1 学級数・生徒数
- 2 通学距離・時間・方法
- 3 保護者の意向
- 4 生徒の意向
- 5 地域住民の意向
- 6 地域間の交流状況

設問⑱ 設問⑫で「1」または「2」を選んだ方はお答えください。

学校の統合や通学区域の見直し等を検討する場合、通学にかかる時間の限度については
どのように思いますか。

- 1 3 0 分程度
- 2 4 5 分程度
- 3 1 時間程度以内
- 4 時間は問わない

設問⑱ 設問⑫で「3」または「4」を選んだ方はその理由をお答えください。

- 1 児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな教育が受けられる。
- 2 クラス内の仲間意識が生まれやすい
- 3 児童生徒一人ひとりが活躍する機会が多い
- 4 異学年間の交流が生まれやすい
- 5 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える

設問⑳ 設問⑫で「3」または「4」を選んだ方はお答えください。

小規模校対策（例えば学校の統合や通学区域の見直し）について、あなたの考え方に近いほうをお選びください。

- 1 人数、学級数に関わらず不要
- 2 すべての学年が単式学級であれば検討すべき
- 3 複式学級 ※になったら必要

（※ 2つの学年をひとつにまとめた学級。例えば3年生と4年生で1学級とする。

複式学級の基準：1・2年生の児童数合計が7人以下、3・4年生の児童数合計が14人以下、5・6年生の児童数の合計が14人以下）

自由記述

アンケートご回答ありがとうございました。

蒲郡市では子ども達によりよい教育環境を整えるため、学校規模の適正化について検討しています。教職員の皆様のご意見があれば、お聞かせください。回答用紙の自由記述欄に記載をお願いいたします。